

實相寺 花園會報

令和四年
二月一日発行
発行所
臨濟宗妙心寺派
陽明山 實相寺
實相寺花園會
〒761-0450
高松市三谷町
1811番地1
TEL.087-889-3838
編集発行人
山本文匡
<https://www.jissouji.net>

第154号

お寺の掲示板

「自分が鬼の心を持つ者と気づかずには、
『福は内』と豆をまいていくよ。」

『道歌教訓和歌辞典』

昨年末から罪もない他人を巻き込む、テロまが
いな凶悪犯罪が相次いでいますが、その背景には
自らの不運や不満を社会システムや政治の所為に
する現代的な傾向があるのでは無いかと感ずます。
社会を批判するだけでなく、自分自身を見つめ
てみる。そんな視点も持ちたいものです。

己れをば

鬼とも知らず

高らかに

福は内とぞ

叫びけるかな

三度、本堂の侵入者

昨年末の朝、本堂でお勤めをしてい
ると天井裏で何やら気配がしました。

以前お世話になった業者に連絡して来
て貰うと、本堂の天井裏とお茶室の軒
下に動物のフンがありました。ただ「今
は混んでいて罾が出払っている」との
こと。改めてお正月明けに罾を設置し
て貰ったところ、数日後には写真の様

にタヌキが捕獲
されました。



気のせいかも知れませんが、時々、
屋根裏の気配を感じるので、もう少し
様子を見ていくところです。

本堂の樋が破損

昨年末、強風が続いてましたが、年
末に掃除をしていると、本堂の裏側の
雨どいが一本途中で壊れて飛ばされて
いました。契約を更新したJAに早速
電話して来て貰い、業者にも見積もり
を依頼しているところです。

お釈迦さまの伝記・仏伝について⑩
 前は「四聖諦」の「苦」について詳しく見ましたが、苦の原因を追求したのが二番目の「集」です。集の本質は「渴愛」ですが、「渴愛」は私達が持っている精神的作用の一つですから、私達の外側にある訳ではありません。つまり私達の苦しみの本質は、私達の外側に存在するのではなく、私達が六根を通じて外界の情報を受け取る時、私達自身の内部に生み出している、というのがお釈迦様の教えです。

この「渴愛」というのは文字通り、砂漠で水を求めて彷徨う旅人のような、耐え難い欲求を意味しますが、誰しもが生まれながら持っているもので、「渴愛」の無い生命体はありません。私達は皆「渴愛」の上に生まれ、「渴愛」

を持って生きています。ただ「渴愛」がある為に、私達は世の中を正しく見ることが出来ないと言われ、この状態を「無明」といいます。

この「無明」と「渴愛」は表裏一体であり、煩惱の根源です。私達は「渴愛」により「無明」という状態に置かれ、「無明」であるが故に「渴愛」を起す、という具合に相互作用しています。この「渴愛」と「無明」が全体として「煩惱」になりますから、これを「集」といいます。

勿論、「無明」から「憎しみ」や「傲慢」など、様々な「煩惱」が二次派的に起こってきます。しかし私達の心の悪い要素、苦の原因を遡って追求していくと、全ての煩惱は「渴愛」と「無明」という表裏一体のところ归结し

ます。これが「集」の本質です。

では「渴愛」が私達の心にどういう欲求を起すのかと言えば、それは「所有に対する欲求」と「生を受けることに対する欲求」の二つに大別されます。一番目の所有欲は「我」を中心とした世界を作ろうとする欲求です。外側に対して、「ここから内は私の領域です。私の内のモノを増やしていくことが私の幸福です」という気持ちです。こういった幸福観を起すのが「所有に対する欲求」です。

お互いに、人は他人よりも沢山のモノや、より良いモノを持っていれば、幸せだという考えに陥り易いものです。しかしそれは絶対的な価値観とは何の関係も無い、比較の中での幸福感に過ぎないのです。

この所有欲は私達が生まれた時から本質的に持っている「渴愛」ですが、

特に人間は他の動物に比べ、その欲求が強いように思われます。例えばいくら凶暴な動物でも、他の動物よりも沢山の肉を貯えている自分の方が幸福だと考える動物はいません。自然界の生き物はあくまでも自分が生きていく為に必要な量しか獲物を殺しません。

しかし人間は違います。今必要が無くても、他人よりも沢山持っているという基準が幸福の源泉になる生き物です。これは何とも悲しい事実ですが、私達は他の生命体よりも強い「渴愛」を持っているのです。

(佐々木閑先生の

YouTube動画よそ)

